



# 「アジア・国際戦略」検討報告書

所管横断的テーマに関する職員提言チームA

平成23年8月31日



1. 25年後の世界の潮流
2. 25年後の福岡
  - ・視点別に見る25年後の姿(ひと・暮らし・ビジネス)
3. 福岡はどこを目指すのか
4. 提言
  - (1)都市の「楽しさ」を極めろ
  - (2)都市の「徳」を磨け

25年後の**世界**の姿はどのようなだろう？

# ● 我々の考える25年後の世界の潮流

## ○アジアの時代(Epoch of Asia)

25年後に向けて、アジアを中心とした大交流時代が始まる。

- ・中国は巨大な**人口と資源**を背景に経済発展を続けている。
- ・**ASEAN諸国**においても**経済的・社会的成長**が進展している。
- ・**インド**も著しい経済発展を遂げ、その**人材や技術力**を背景に日本との経済的な結びつきも一層深くなる。

## ○バリアレスの時代(Epoch of barrier-less)

25年後の未来を考えると、ヒト・モノの流れを妨げている障壁は格段に少なくなっている。

- ・輸送・・・**入国手続きは簡素化**され、**LCCの台頭**や**ノービザ化**、**関税の撤廃**などの動きが進んでいる。
- ・情報・・・**情報技術の発達**で、端末を通して気軽に海外の製品や店舗情報を入手し発注することができる。
- ・言語・・・技術の発達は、様々な形の**自動翻訳ツール**を可能にし、言語的な障壁も減っている。

## ○新たな課題の時代(Epoch of new difficulty)

25年後は、世界で協調して取り組むべき問題が増えている。

- ・高 齢 化・・・中国・韓国でも**高齢者人口**が増えており、各国で共通する問題となっている。
- ・環境問題・・・**地球温暖化問題**をはじめ、経済発展に伴う様々な問題が途上国でも生じている。
- ・資源問題・・・**石油**や**レアメタル**をはじめ、資源の枯渇への対策が不可欠である。
- ・そ の 他・・・急激な人口増や食糧問題は、新たな**移民問題**を生む恐れがある。

では、25年後の福岡は・・・

- ・福岡は古来より、海外からモノや人が日本に入ってくるゲートウェイの役割を果たしてきた。お茶やうどん、饅頭など多くのモノが福岡を通して日本中に広がっていった。また、遣隋使や遣唐使をはじめとして、多くの人がこの地から海外へと渡っていった。
- ・これらはアジアに近いという福岡の地理的なアドバンテージがもたらしたものであり、現在に至るまで多くの往来がまちに賑わいをもたらしている。アジアへの近接性は、福岡の変わることのない価値であり、それを基礎として、アジアとの深い関係性が醸成され、これからも深化していくだろう。

25年後も変わらないもの。福岡が「国境」に接した、「**国境**」を越えていくまちであるという事実。

- ・福岡の持つ普遍的な価値であるアジアとの関係を踏まえ、あるべき**アジア・国際戦略のビジョン**を打ち立てるため、**国境のひと**、**国境の暮らし**、**国境のビジネス**の3つの視点から、25年後の国境のまちの理想の姿を描いた。

**国境のひと**  
(育成)

**国境の暮らし**  
(おもてなし)

**国境のビジネス**  
(発展)

## 国境のひと (育成)

ホスピタリティと人の温かさで知られる国境のまち、福岡市では、充実した**外国語教育**や**国際化教育**により、市民の国際化に一層磨きがかかっている。**海外からの若者や専門家を積極的に受け入れる**とともに、多くの市民が**海外への貢献**を志し、魅力溢れる**アジア人材の宝庫**になっている。

### ○外国語教育

小学校から英語・中国語・韓国語教育が一般化し、その他の市民に対しても語学教育が盛んで、日常生活の中でも、海外と接する機会(ホームステイ、交換留学、海外への修学旅行)も多く、外国語で会話できる人が多い。

### ○国際化教育

語学力、発想力、度胸を伸ばす国際化教育(別名「博多商人プログラム」)により、日本型受験から脱皮し、海外ビジネスや国際貢献を志すメンタリティが育まれている。

### ○海外からの若者の受け入れ

福岡独自のワーキングホリデー制度により、世界中から人材を受け入れているため、深い愛着を持って福岡を理解し、また福岡で起業する海外の若者が増えている。

### ○海外への貢献

福岡の人たちは、世界各国へ貢献する姿勢を常に持ち、国境を越えてアジア各国でボランティアをしている。若者は海外での活動を通じて経験を積み、退職者はその技術と経験をアジアの新しい世代に継承している。

### ○アジア高度人材の宝庫

アジアビジネス、文化について研究する大学や研究機関が多数あり、アジアからの優秀な研究者を受け入れ、専門的な研究と高度人材の育成が進んでいる。

# ● 視点別に見る25年後の姿

## 国境のくらし (おもてなし)

仕事に、生活に、余暇の楽しみ方に、誰もが憧れる魅力的なまちとして海外からも人が集まってくる。博多の**伝統を守りつつも様々な異文化も受け入れた活気と居心地のよさ**があり、環境面でも**先進技術**を駆使したまちづくりが新しい時代の都市の理想像として人々の注目を集めている。

### ○快適なくらし

都市機能がコンパクトに集積し、世界最高水準の交通利便性を有しながら、海や山などの自然に囲まれた環境に恵まれ、快適でストレスレスな生活ができることが「くらしやすい」との高い評価を受けており、環境面でも理想的な都市(スマートシティ)としての「福岡モデル」が確立されている。

### ○活気のあるまち

福岡の伝統文化の中に異国の文化も受け入れ、アジアに開けた活気のあるまちになっている。祭りやイベントが充実しており、常に賑わっているまちとの印象が強く、どんたくや山笠が日本の有名な「祭」として認知されている。

### ○多文化共生

在住外国人が増加する中で、外国人の生活改善のためのボランティア活動などが活発に行われ、市民の間には異文化を尊重する意識が芽生えており、アジアの多文化共生都市として海外で認められている。

### ○アジア村

アジア村と呼ばれるエリアが市の中心部に形成され、気軽にアジア各国の料理、衣類、文化等に触れることができる。そこでは毎月アジアの日があり、中国や韓国など月替わりに各国のお祭りやバザーなどが開催され賑わっている。

### ○スポーツ都市

大規模なスポーツイベント(市民マラソン、自転車レース、トレイルランなど)の開催で立地のよさから、海外から気軽に参加する人が多く、スポーツで有名な都市として各地から人が集まってくる。



## 国境のビジネス (発展)

世界でも有数のクルーズ船寄港地であり、「買い物」だけでなく、美容、健康、アート、ファッションなど「美」のメッカとなっており、新興国の女性を中心として海外から多くの人を惹き付けている。また、地の利を活かし、アジア⇄日本の市場を狙う企業のパイロット事業を担うなど戦略的拠点都市となっている。

### ○ショッピング

まち全体がショッピングセンターのように整備されており、日本観光や九州観光に訪れた観光客は、必ず福岡に立ち寄り、買い物を楽しむようになっている。

### ○パイロット事業拠点都市

国境のまちとして、日本市場へ進出を図る外国企業や東アジアへ市場展開を図る日本企業にとって、パイロットショップを展開する最適の地となっている。実際の店舗を持たないネットショップでも、福岡に物流拠点を置き、同時にパイロットショップを展開することが主流となっている。

### ○先進産業のモデル都市

福岡が育んだ環境技術(ゼロエミッション&カーボンニュートラル都市、節水型都市、水素ガス、風力発電など)が産業となり、福岡独自のノウハウが世界中で活用され、「先進産業のモデル都市」として世界の手本となっている。

### ○「美」のメッカ

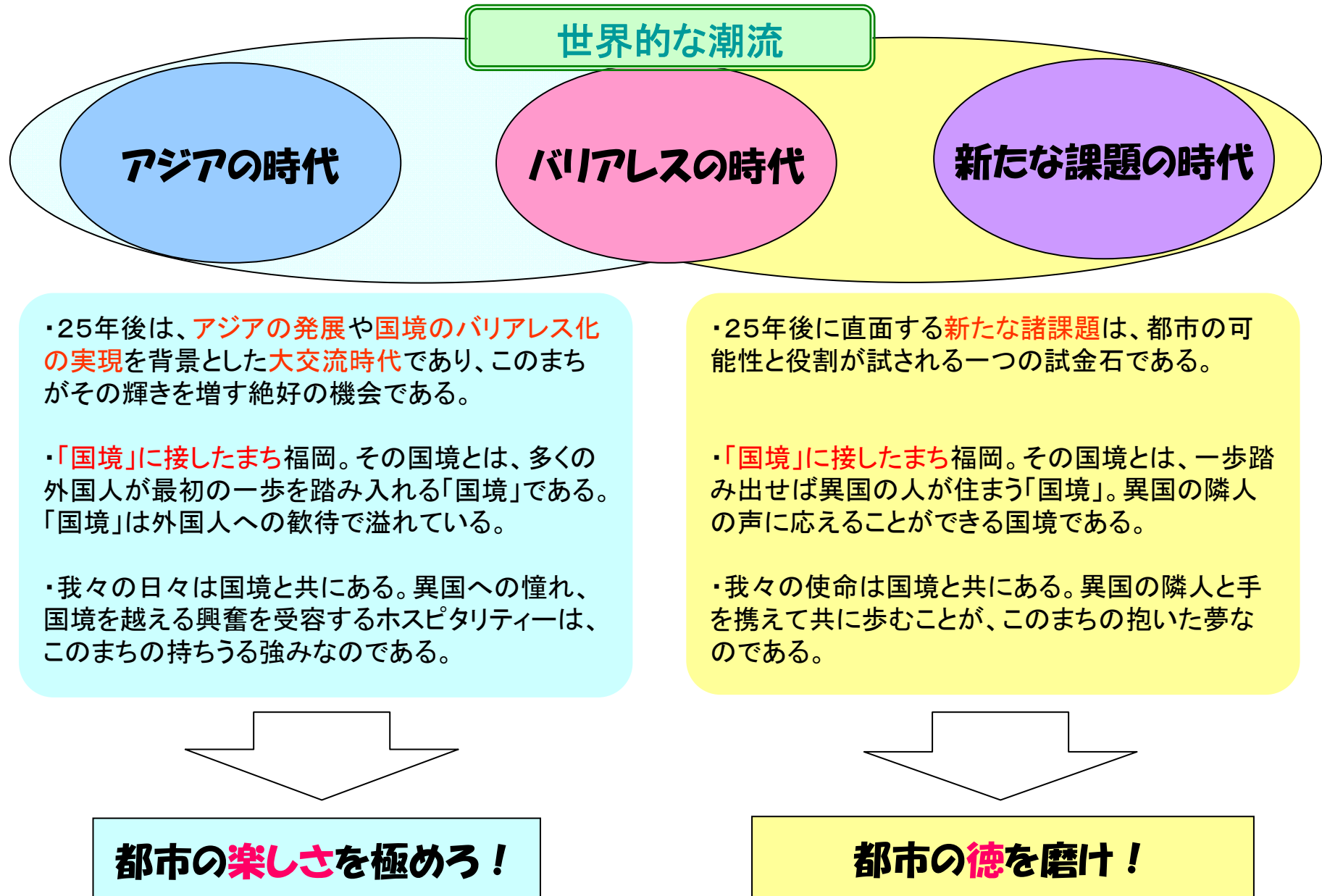
美容、健康、アート、ファッションなど「美」に関わる産業が活発になり、世界的なアンチエイジングの聖地となっており、海外から多くの客が美容・健康ツーリズムなどで訪れるほか、その技術を学ぶために留学してくる者も多い。

### ○クルーズのハブ港

博多港が日本最大のクルーズ船寄港地として、日中韓を回るクルーズ船や定期旅客船のハブ港となっており、海からの人流が増えている。

**世界**の潮流の中で**福岡**が舵を取るべき針路は…

# ● 福岡はどこを目指すのか 私たちの二つの提言



# 提言

都市の“楽しさ”を極めろ

- はじめに

---

- 25年後に予想される世界の潮流(P.3)のうち、「**アジアの時代**」と「**バリアレスの時代**」という潮流を考えると、アジアの活力を福岡にどのようにして取り込んでいくかという問題が今後も福岡市の課題となり続けていくことが予想される。
- ここでは、25年後を見据えて福岡市が「**アジアの活力を取り込む**」という部分に焦点をあて、都市戦略を検討していく。

## ● 福岡市の「強み」と「弱み」

まずは、福岡市が持っている「強み」と「弱み」について考えてみる...

### 「強み」

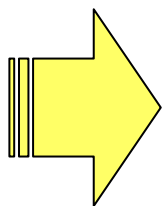
- ・卸売・小売業・サービス業が産業の約6割
- ・小売業売場面積が増加している
- ・博多港・福岡空港における輸出入額が増加している
- ・卸売業・小売業で起業する人が多く、開業率は高い
- ・若者率が高い
- ・祭りやイベント等がたくさん開催されている

### 「弱み」

- ・第1次産業・第2次産業の割合が低い
- ・製造業が福岡市の産業に占める割合は4%しかない
- ・観光資源に乏しい
- ・海外での知名度が低い

### 上記からイメージされる福岡の姿は...

- ・モノを仕入れて売買することは得意だが、モノを作るのは苦手
- ・サービスは得意で、ホスピタリティは高い
- ・みんなで集まってお祭り騒ぎするのは好き



福岡はやっぱり今でも、

博多商人のまち

なのである...

## ● 福岡市(博多商人)が得意なこと

14

### 1. モノを動かす

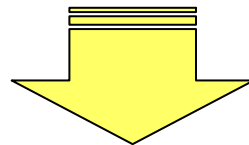
様々な地域の特色あるモノを発掘し、集めてくる。(卸売業)

### 2. モノの販売

集めたモノを多くのヒトに紹介し、生活を彩る様々な提案を含めて販売する。(小売業)

### 3. ヒトを喜ばせる

様々なサービスを通して、お客様に喜んでもらい、その対価を得る。(サービス業)



このポテンシャルを  
最大限に発揮できるまちづくりが大事！

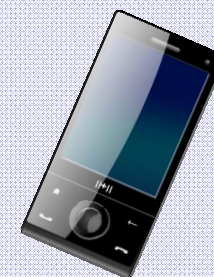
## ● 25年後の消費行動を想像...

25年後も福岡市が魅力溢れるまちとなっているために、25年後における「消費行動」と、それでも変わらない「**楽しさ**」について考えてみよう。

### ☆25年後の買い物風景(想像)

電子マネーが普及し、商品が即座に自宅に配達されるため、手ぶらで買い物が楽しめるようになっている。

だが、高度に発達した物流網は、ネットショッピングの利便性を飛躍的に向上させており、家にいながら日常の買い物を済ませることができるため、実店舗が減少している。

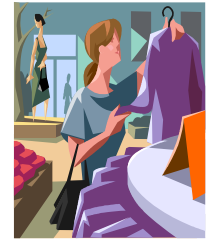




## ● それでも変わらない価値...

- たくさんのモノから好みのモノを発見する**楽しさ**
- そこでしか手に入らないレアなモノを手に入れる**楽しさ**

➡ **「発見」**



- 商品を手に取り、体験(試着など)してみる**楽しさ**
- 着飾った人々が行き交う場所に、自らも着飾って出かける**楽しさ**
- 体験型エンターテイメントで友人や恋人と時間を共有する**楽しさ**
- エステや美容室のように身体を癒し、美しく変身する**楽しさ**
- お酒を飲んで美味しい物を食べる**楽しさ**

➡ **「体験」**



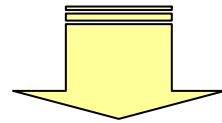
- 売り手との生のやりとりを通して得られる**楽しさ**

➡ **「ふれあい」**

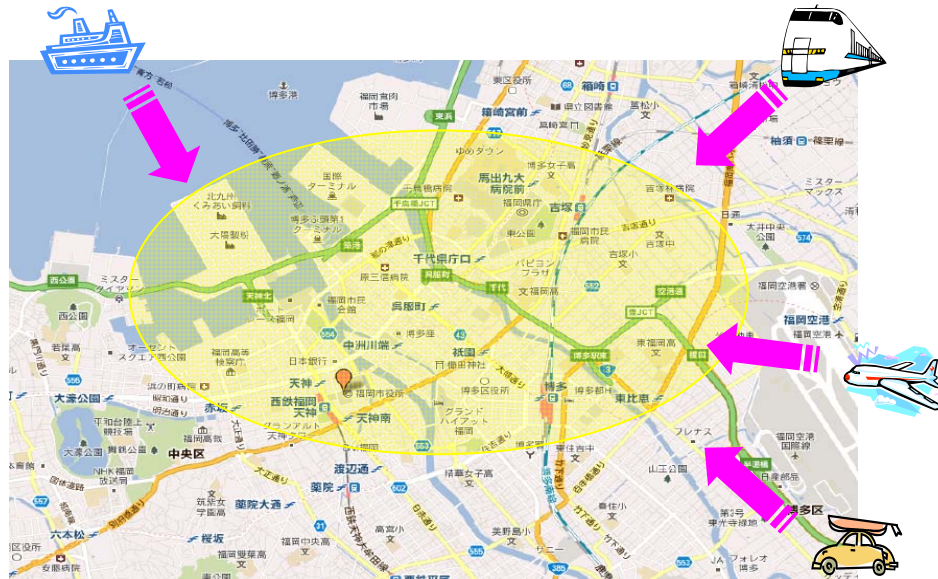


こんな「**楽しさ**」がたくさんつまったまちづくりを！

現代の博多商人がポテンシャルを最大限に発揮でき、「**発見**」・「**体験**」・「**ふれあい**」の楽しさが極められたまちづくりを行う



福岡市の個性を際立たせ、  
**アジアの観光客**を引きつける！

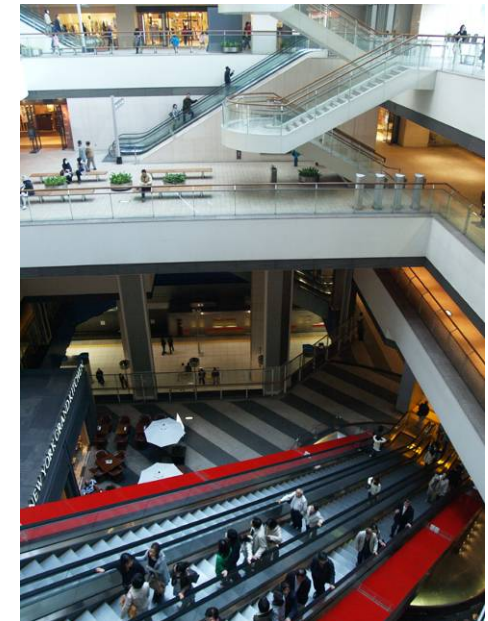


そのためには…

## ● 体験型エンターテイメントシティの実現

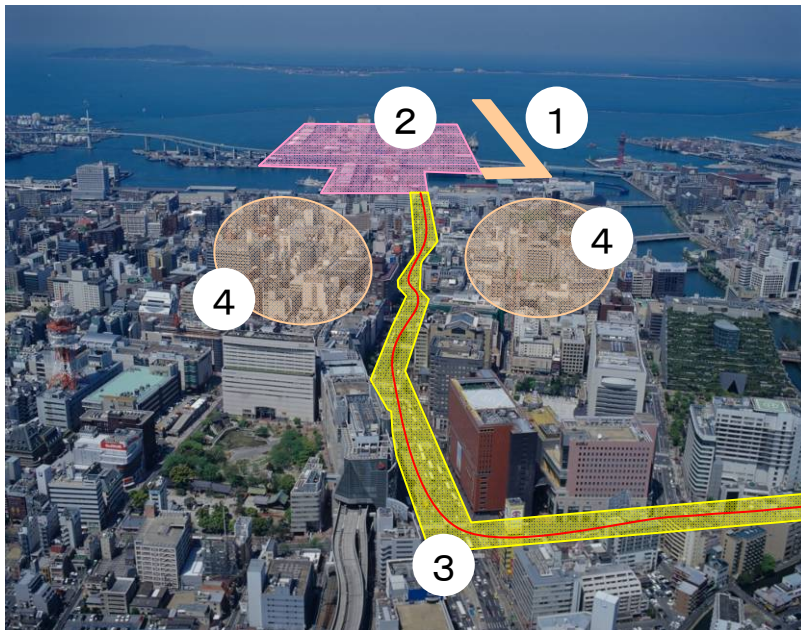
18

ショッピングセンターでは、適度な広さ、バリエーションに富んだ店舗、飲食・エンターテイメント施設が揃い、施設内だけで必要なモノが買え、各々が自由な楽しみ方で時間を過ごすことができる。



そんなショッピングセンターのような楽しさを、  
福岡はまち全体で実現!!

25年後のアジア観光客が、国境を越えてワクワクできるようなまちを天神に実現させる！



### 1 クルーズ船ハブ港

国際旅客船のターミナルを須崎ふ頭に集中させて、天神のまちとリンクさせる。都心に近いことで利便性を向上させる。

### 2 楽市楽座特区

自由に交易を行える特区を設け、自由市場を設置。ヒトとモノが福岡で出会う象徴となる場所として整備する。夜には屋台も出て、一大観光地とする。

### 3 天神ー博多間 歩行者天国

須崎ふ頭から博多駅まで続くルート歩行者天国化する。歩行者天国の中央にはLRTが博多駅まで延び、天神ー博

多間の人の流れを作る。道路の両脇には、露店や屋台が並び一年中お祭りのような賑わいが形成されている。どんたけのようなお祭りが頻繁に開催され、訪れた観光客を楽しませている。

### 4 食とエンターテイメントのエリア

「食」と「エンターテイメント」のエリアを整備。親富孝通り付近を、アジアのグルメが集まる一大「食」のエリアとして整備する。通りごとに「中華路」「韓国路」「インド路」などと名付け、本場の食が楽しめる料理店を集める。「エンターテイメント」は競艇場を中心に整備し、外国人も気軽に楽しめるギャンブルしてとして競艇を売り込み、その他の体験型エンターテイメント施設の集積をはかる。

国境に接するまち福岡。玄関口の博多港には、日中韓をめぐるクルーズ客船がいつでも複数停泊している。空港・鉄道・高速道路から港が至近にあることから、クルーズ客船で福岡を訪れた旅行者は九州・西日本各地の観光地にスムーズにアクセス。同様に福岡からクルーズ客船に乗り込む日本のお客さんにとっても便利なことから、関東や関西から「国境を越えるクルーズ」を楽しむために多くの観光客が福岡を「発着地」として利用している。

## 須崎ふ頭のクルーズ拠点化

都心部に近い須崎ふ頭に、複数のクルーズ客船が同時に停泊できるよう国際旅客船のターミナル及び岸壁を整備。

接岸すれば「楽市楽座特区」が目の前に広がり、その先には天神、博多駅へと続くLRT&歩行者天国が続く。

**国境を越える  
クルーズは博多から！**



天神に最も近い港である須崎ふ頭に、自由に交易が行える「楽市楽座特区」を実現。特区内では、日本国内の規制を受けずに自由に売買や交換ができる。福岡を訪れる観光客は、自宅から不用になったモノを持ち寄ってフリーマーケット感覚でモノをやりとりすることができる。



## 自由交易を楽しむ「楽市楽座特区」

誰でも参加できるようなフリーマーケットをイメージ。  
エリア内は免税で、エリアを出て市内へ入る際に課税されるため、非合法な物以外ならクルーズ船観光客も入国審査等なしに自由に交易が楽しめる。ネットに情報が流れていないようなレアなものからがらくた商品まで、ここでなら面白い物を探す楽しみや、交換や売買を通して人とふれあう楽しみが溢れている。  
夜は屋台に変身し、アジア各地のグルメも楽しめる。

## <イメージ>



## ● 天神－博多間歩行者天国

福岡のコンパクトさをいかし、観光客が歩いて楽しいまちづくりを進めるため、港から博多駅につながるルートを含めて歩行者天国化する。歩行者天国には露店を設け、観光客が歩きたくなる仕掛けを行う。また、回遊性の更なる向上のため、歩行者天国のルートと重なる路上にLRTを整備。近距離で停留所を設け、観光客の交通手段として活用してもらう。



### 天神－博多間 歩行者天国

須崎ふ頭から博多駅まで続く歩行者天国。道路の両脇には、露店や屋台が並び一年中お祭りのような賑わいが形成されている。どんたくのようなパレード系のお祭りが頻繁に開催され、訪れた観光客を楽しませている。



イメージ

### 天神－博多間 LRT

港から駅まで延びるLRT。観光客が楽しめるように、近距離で停留所を設置し、地下鉄との差別化を。



イメージ

## ● 福岡の楽しみ方の例 その1

### ①「徳」で「得」するまちづくり

「徳」の精神が根付いた福岡市(提言2参照)では、ソーシャルビジネスやボランティアが盛んとなっている。まちづくりでも、そうした取組みを積極的に取り入れ、観光客に対する魅力向上に一役買っている。

#### ◎プラン例「ソーシャルビジネス溢れるまちづくり」

福岡では、商業の街として「ソーシャルビジネス」による「フェアトレード」を積極的に支援する。歩行者天国が整備された際には、出店する露店が「フェアトレード」を活用したものである場合には無償で使用を許可する。これにより、世界の貧困地域から卸してきたものを適正価格で販売する場合、使用料無償化により削減できたコスト相当額が貧困地域へまわせる利益として確保できることとなる。また、世界の貧困地域より多種多様な商品を揃えることで、観光客に対する魅力の向上につなげることが可能となる。



#### ◎プラン例「ボランティアを取り入れたおもてなし」

福岡に観光に来ると、余暇の時間を利用した市民ボランティアによる観光案内が受けられる。①車で市内を案内するコース、②街中のオススメ店を紹介するコース、③ホームビジットで家庭体験をするコースなどがある。

ボランティアの利用希望者は、ボランティアのお礼として、自分の宝物を一つ差し上げることとなっている。宝物にまつわるストーリーも添えてもらう。もしも、宝物の持参がない場合には、自分ができる範囲のお手伝いをしてあげればOK!

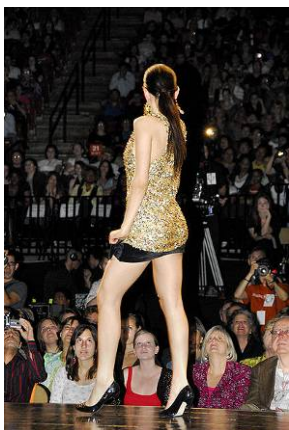




### ②福岡でおしゃれ大作戦

若い女性の比率が高い福岡では、女性の「おしゃれ」に焦点をあてたおもてなしが盛んとなっている。まちづくりにも、そのような観点を取り入れ、様々な取組みが行われている。

#### 【取組み例】 地下街ファッションショーの開催



地下街を利用したファッションショーを開催。長い通路を利用し、流行を取り入れたファッションショーを頻繁に開催する。観光客は、実際に見たファッションのうち、気に入った服装を最寄りの店舗で買い求めることができる。

#### ◎プラン例「奥さま大变身ツアー」

福岡に来る前に端末で自分の画像や希望のスタイルを送信しておく、スタイリストが希望に応じてトータルコーディネートしてくれます。必要な情報が各店舗に送られ、案内のとおりショッパや美容室、メイク、エステなどをまわると、数時間後には、イメージしたような大变身を遂げることができます。「おしゃれ」にこだわる福岡だからこそできる「美」のプランです。



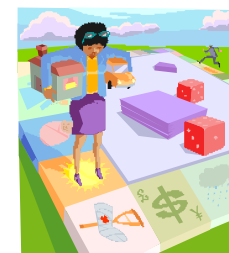
## ● 福岡の楽しみ方の例 その3

### ③リアルゲームシティFUKUOKA

ゲーム産業の集積が進む福岡市。福岡では、**ゲーム**の世界が仮想空間を飛び出して、現実空間に溢れている。街のいたるところにゲームの要素がちりばめられ、観光客を楽しませている。

#### ◎プラン例「リアルゲーム体験都市FUKUOKA」

ゲーム会社と共同して、**福岡を舞台にした謎解きゲーム**を開発します。ゲーム内容は、できるだけ現実に即したものにしておき、福岡を訪れた観光客が、ゲームの世界と同様の体験を、現実の世界で再現できる仕掛け作りをしておきます。謎を解くため、市内色々な場所を訪れ、実際に聞き込みをしてみたり、謎を解決した後は、来訪者はきっと誰よりも「福岡通」になっています。



### ④九州の工芸品が揃うまち

九州観光における国境の役割を果たす福岡。そこでは、多くの観光客が求める「**お土産**」に対するニーズをくみ取り、九州各地の工芸品を注文できる窓口となっている。

#### ◎プラン例「世界に一つだけのお土産」大作戦

ネットショッピング時代には、ネットでは買えないご当地限定品がお土産の主流です。福岡には九州の職人を集めたゾーンが誕生。自分好みの工芸品を発見したら、世界に一つしかない**オリジナル記念品**をオーダーできます。また、希望すれば現地を観光し、製造過程の見学や体験も可能です。旅の「記念」だったお土産が、旅の「目的」となる拠点として福岡が中心的役割を果たします。

九州の工芸品



## ⑤ アジアをきっかけに交流が生まれるまち

アジアの玄関口としてのイメージが定着した福岡には、アジア各国の飲食店や衣料品店等が集結し、アジアの衣食住が体験できる。多くの観光客が集まり、「アジア」をキーワードに交流が生まれている。

### 【取組み例】 アジアの日の策定



毎月〇日をアジアの日と定め、月替わりに様々な国のイベントを開催。その国の飲食店等が割引サービスを実施したり、歩行者天国にて、伝統衣装や演奏を用いたパレードや現地で行われる祭り等を実施する。

### ◎プラン例「アジアの日にまた会おう」大作戦

アジアの日に世界各国から訪れた観光客は、昼はアジア各国の衣料品や雑貨品の買い物をしたり、パレードや祭りに参加したりして楽しめます。夜は飲食店に集い、世界各国からの観光客と一緒に、アジアのお酒や料理を楽しみながら、この日の体験やアジア情報について共有します。「アジアの日にまた会おう」を合い言葉に、福岡が世界各国の観光客の交流の場となっています。



# 提言

都市の“徳”を磨け

アジア人の心にある共通の価値観  
それは“徳”である

## ● 都市の“徳”を磨け

- 経済力や人口、情報力だけでは、他地域から信頼を勝ち得る都市となることはできない。
- さまざまな交流の中で、多くの人々の心に共感を呼ぶもの、それが“徳”である。
- 私たちは都市にも“徳”が存在すると考える。しかし、これは一朝一夕に実現できるものではない。
- 福岡はこれからの25年間、アジアの隣人たちと手を携え、共に成長していくことで、都市の“徳”を磨いていく。
- 市民一人ひとりが、アジアの一員として、アジアの人々とともに行動し、問題解決に取り組む。
- この積み重ねによって、25年後の福岡は、アジアにとってかけがえのない都市となることができる。

福岡の“徳”を磨く3つのキーワード

「英知」 「OMOIYARI」 「文化」

## 福岡はアジアの「英知」を結集する

新たな時代、都市が抱える課題は多岐にわたり、その解決には国境を越えた連携と幅広い英知の結集が不可欠である。福岡は、これまで多くの課題を克服してきた経験を提供し、国際機関やNPOなど様々な組織や人々と連携・協力する。

アジアの諸都市が抱える課題を自分たち自身の問題として捉え、解決を目指して一緒に取り組んでいくことが、私たちの考える徳である。

## 福岡は「OMOIYARI」の力を引き出す

古来からアジアとの交流のまち「福岡」に住む私たちは、まだ見ぬアジアの人々にも思いをはせる。アジアから旅人を歓待する「おもてなしの心」を、まだ見ぬアジアの国々の人々に対し、心を合わせ、協力する気持ちを忘れない「OMOIYARI」に昇華させる。

“OMOIYARI”を合言葉にアジアの人々と手を取り合って、共に栄える未来を目指すことが、私たちの考える徳である。

## 福岡はアジアの「文化」を学び、育む

アジア文化に親しむ街「福岡」に住む私たちは、アジア文化を大切にする。アジア文化を自分たちの街に蓄積し続けるだけでなく、蓄積した文化資産をアジアの国々と共有し、いつでもアジアの国々・人々が活用できるようにすることで、アジア文化の更なる発展に寄与していく。

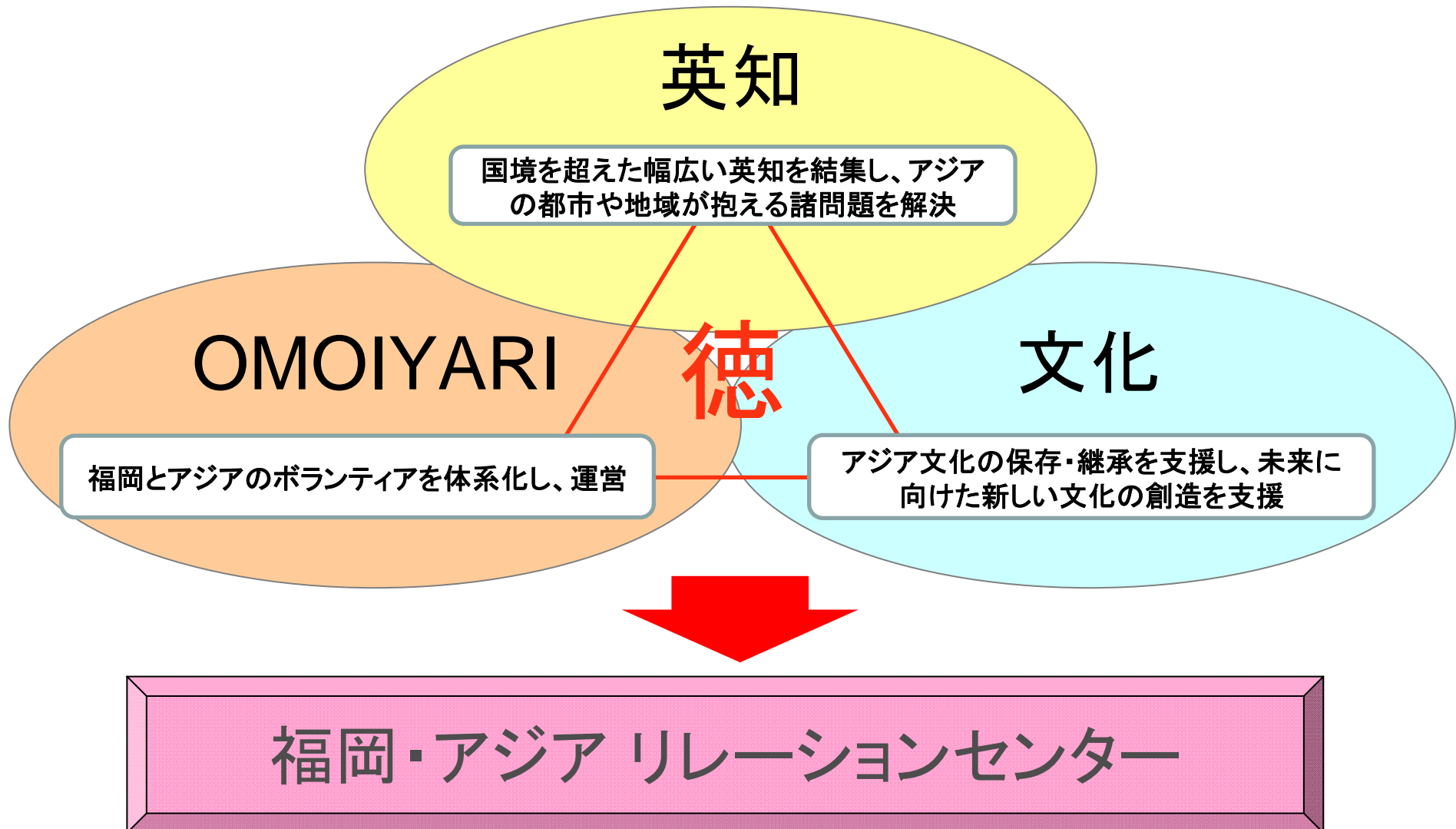
それぞれの文化がもつ個性を理解し、尊重しあえる関係の上に、私たちの考える徳がある。



**福岡**が**徳**を体現するための提案

# ● 提案：福岡・アジア リレーションセンターの設置

福岡とアジアをつなぐシンボル「福岡・アジア リレーションセンター」を設置



福岡がこれまで克服してきた都市問題解決の経験を提供するとともに、国際機関、アジアの各都市、NPOなど様々な組織や人々の英知を結集し、アジアの諸都市が抱える課題の解決に貢献する。

### ■ 新しい活動・組織

#### 《国連人間居住計画(ハビタット)福岡本部との連携》

福岡にアジア本部を置く「ハビタット」との連携を強化。ハビタットが推進する、「安全都市づくり」「水管理」「持続可能な都市計画」「災害管理」「都市管理」の各プログラムに福岡市の持つノウハウを提供。ハビタット及びアジアからの要請に基づき各プログラムに精通した技術者も派遣する。

#### 《福岡・アジアこどもネットワーク》

アジアの未来を担うこどもたちが国境や人種、宗教の違いを超えて集い、相互理解を深める機会を提供するほか、こどもたちを取り巻く様々な問題の解決を図る国際ネットワークを構築する。

#### 《環境技術トレーニングセンター》

福岡で既存技術の研修や新たな環境技術の導入研修を行う際、アジア各国の自治体職員にも段階的に開放。外国人向けの研修ノウハウを蓄積して、有償で誰でも環境技術のトレーニングを受講できるセンターを設立する。

福岡の「OMOIYARI」を形とするものとして、活動地域をアジア全域とする新しいボランティアシステムを創設する。また、ボランティアを持続可能な自立した活動とするため、地域通貨を活用したボランティア交換システムを確立し、地域内でボランティア活動を流通させ、ボランティアによる交流を活発化する。

### ■ 新しい活動・組織

#### 《アジア・ボランティアの運営》

活動地域をアジアと福岡とするボランティアの登録・認証、研修、派遣などの一体の制度を創設。登録時や一定期間経過後に研修を行い、認証を受けた人がボランティアに従事する。ボランティアの質を維持するため、評価制度も導入し、質の高いボランティアが提供されるシステムを作る。

#### 《地域通貨制度によるボランティア交換システムの確立》

活動地域内で使用できるボランティア交換システム(1ボランティアを1通貨)を創設し、だれもがボランティアができ、またボランティアが受けられるシステムを確立する。

#### 《福岡版海外協力隊》

対象地域であるアジアへ海外協力隊として定期的に市民ボランティアを派遣する。活動内容別・使用言語別などの候補者リストを作成し、災害時には緊急協力隊をただちに派遣する。

#### 《関係機関とのネットワークの構築》

国連・自治体・NPOなどと連携し、各機関から要請を受けたボランティアの派遣も行うなど、専門性の高い活動も展開する。

アジア文化を自分たちの街に蓄積し続けるだけでなく、蓄積した文化資産をアジアの国々と共有し、いつでもアジアの人々が活用できるようにすることで、アジア文化の更なる発展に寄与していく。

### ■ 新しい活動・組織

#### 《アジア文化研究センター》

アジア文化の総合研究機関。いわゆる「文化らしい文化」の研究だけでなく、各国の市民の行動様式や倫理観などの比較といった、アジア各国の人々がお互いを理解するのに役立つ研究もおこなう。

#### 《コミュニティ・スタジオ》

アジアのクリエイターや地域の人々が交流し、制作や表現活動が自由にできる場（スタジオ、宿泊施設など）を提供することで、誰もが身近にアジアの文化を体感し、創作活動をおこないやすい環境を整える。

#### 《福岡・アジア文化アーカイブ》

様々な事業で福岡がこれまで集めてきたアジア文化資産を集結。アジア各国の人々が自由に閲覧できるほか、各国の文化研究機関が研究資料として自由に活用できるようにすることで、アジア文化の保護・研究に貢献する。

“徳”は事業の基(もと)なり

(洪 応明・中国明時代)

# 所管横断的テーマに関する 職員提言チームA

諫山	信一	羽田野	祐樹
市場	留美	東島	正太
奥田	聖	山口	修平
小林	信宏	山田	浩平
執行	謙一	渡邊	英樹
中尾	智路	久田	章浩(顧問)

